

巻頭言

学士課程における地域看護学の教育
——地域看護関連学会合同委員会の活動と展望——

河野あゆみ

大阪公立大学看護学部地域包括ケア科学

日本地域看護学会誌, 28 (1) : 3, 2025

2023年度より、日本地域看護学会、日本公衆衛生看護学会、日本在宅看護学会とともに、意見交換を行う場として地域看護関連学会合同委員会を設けた。ここでは、看護師に必要な地域関連看護の資質はどのようなものか、看護学生がその資質を修得するための必要最低限の教育内容はどのようなものか、各学会の教育関連担当の理事等を中心に、ときとして各学会の理事長にも入っていただき、活発な議論を交わしてきた。

地域看護に関連する教育分野については、この10数年の間に、保健師教育の選択制や上乗せ教育の普遍化、看護師等養成所における指定規則（2022年度）における「地域・在宅看護論」の導入などさまざまな改革が行われてきた。また、2023年度より文部科学省において看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂作業が始まり、この雑誌が発刊される2025年度始めには、改訂したモデル・コア・カリキュラムが全国に周知されるころと考える。これらの背景を踏まえて、看護基礎教育の現場においても教授内容や教授方法を転換させていくことが求められている。そのうえ、多様性をみとめ、新たな価値を生み出そうとする時代の流れを受けて、地域における看護は急速に進化してきており、多様な主体の看護職から提供する既存の制度や事業から一歩踏み出した独自サービスなどが提供されてきている。

もちろん、各学会それぞれオリジナルのフィロソフィーをもち設立されているため、学問分野の定義の仕方などは、同じ考え方というわけにはいかず、むしろ同じにならないほうが自然なことかもしれないと感じた。しかし、この委員会では、モデル・コア・カリキュラムの改訂作業において、同じ地域における看護を志す学会として集まっていることを評価され、共に作業をする機会も得ることができた。その作業のなかでは、看護基礎教育で教授すべき内容についてはさほど、意見の相違はみられず、看護学という同じ土壌に立って、今後に向けて発展できる可能性を感じたというのが私の正直な所感である。看護学生の志向性、職業選択のあり方、療養者や住民等のケアニーズ、医療・介護・保健の提供体制などがドラスティックに変化していくなかで、学会コミュニティに集う人たちのものの考え方の細かな差異にとらわれ過ぎて、結果として、看護の本質を見失わないようにしていきたいと思った。

合同委員会で検討してきた学士課程における教育内容について、暫定版を近々公開し、広くフィードバックを求める予定である。教育内容は、看護基礎教育に携わるさまざまな方々により評価・活用していただいてこそ、ブラッシュアップされ、人材養成の質の向上に寄与できると考えている。このたびの合同委員会での活動内容がこれからの地域看護学ならびに看護学の発展に寄与することを願っている。